

ナシヒメシンクイの越冬世代成虫が非常に多いです

県内各地に設置したフェロモントラップによるナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺数は、平年と比較して非常に多い状況です（図1、2、3）。

このような状況から、次世代以降の発生量も多くなることが予想されるため、適切な防除対策を実施してください。

【作物】 ナシ、ウメ、モモ、スモモ等

【病害虫】 ナシヒメシンクイ

防除上の注意事項

ア 越冬世代の発生ピークを起点として、発育零点と有効積算温度^{*1}から次世代（第1世代）成虫の発生ピークを予想すると、日田市（アメダスデータ日田から算出）、由布市（同大分から算出）、宇佐市（同豊後高田から算出）では、5月6半旬～6月1半旬頃と予測される。

^{*1}：発育零点（11.1℃）、有効積算温度（383.7日度）、発育上限温度（28.0℃）、発育停止温度（30.0℃）。

イ 薬剤散布適期までの日数は、第1世代成虫では発生ピークの7～9日後という報告があるので、防除適期^{*2}は6月1～3半旬頃と予想される。

^{*2}：幼虫が新梢に食入すると薬剤の効果が低くなるので、卵から幼虫がふ化するタイミングが防除適期である。

ウ 薬剤散布については、農薬使用基準（希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

病害虫対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



ナシヒメシンクイ フェロモントラップ調査(日田市)

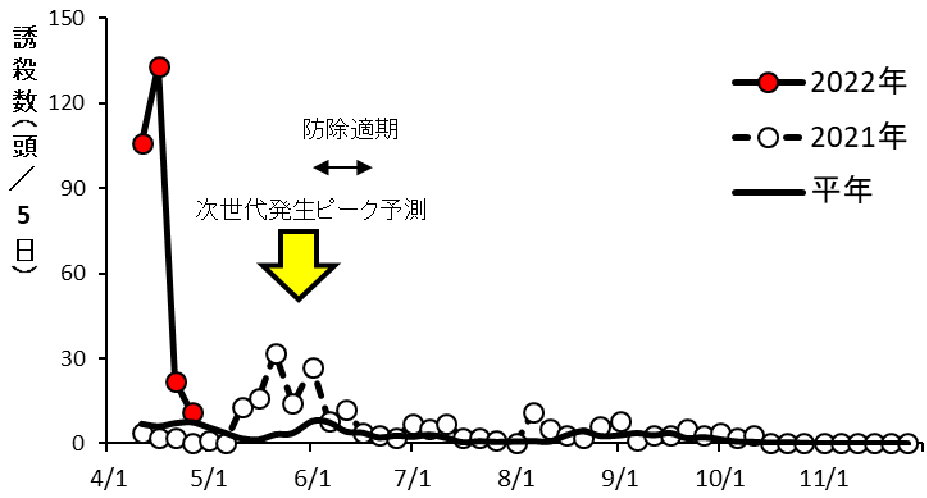


図1 ナシヒメシンクイ フェロモントラップ誘殺数(日田市)

ナシヒメシンクイ フェロモントラップ調査(由布市)

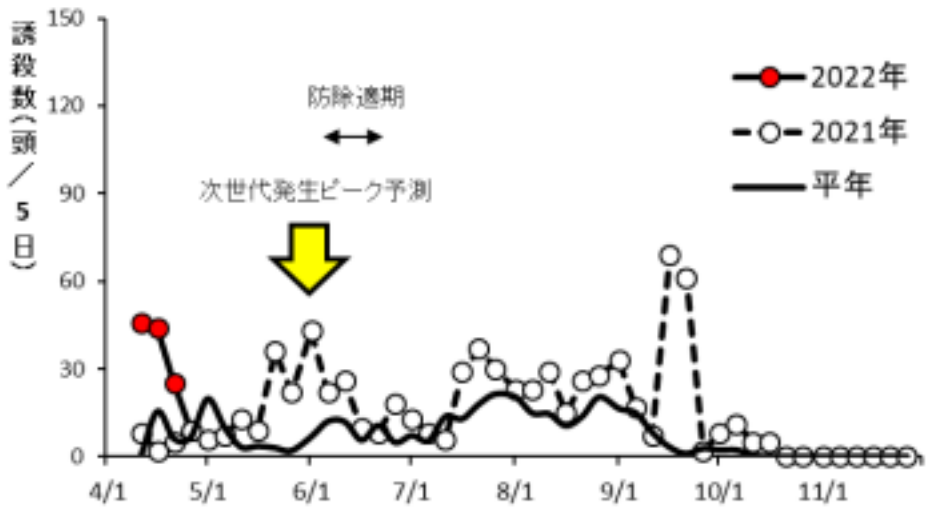


図2 ナシヒメシンクイ フェロモントラップ誘殺数(由布市)

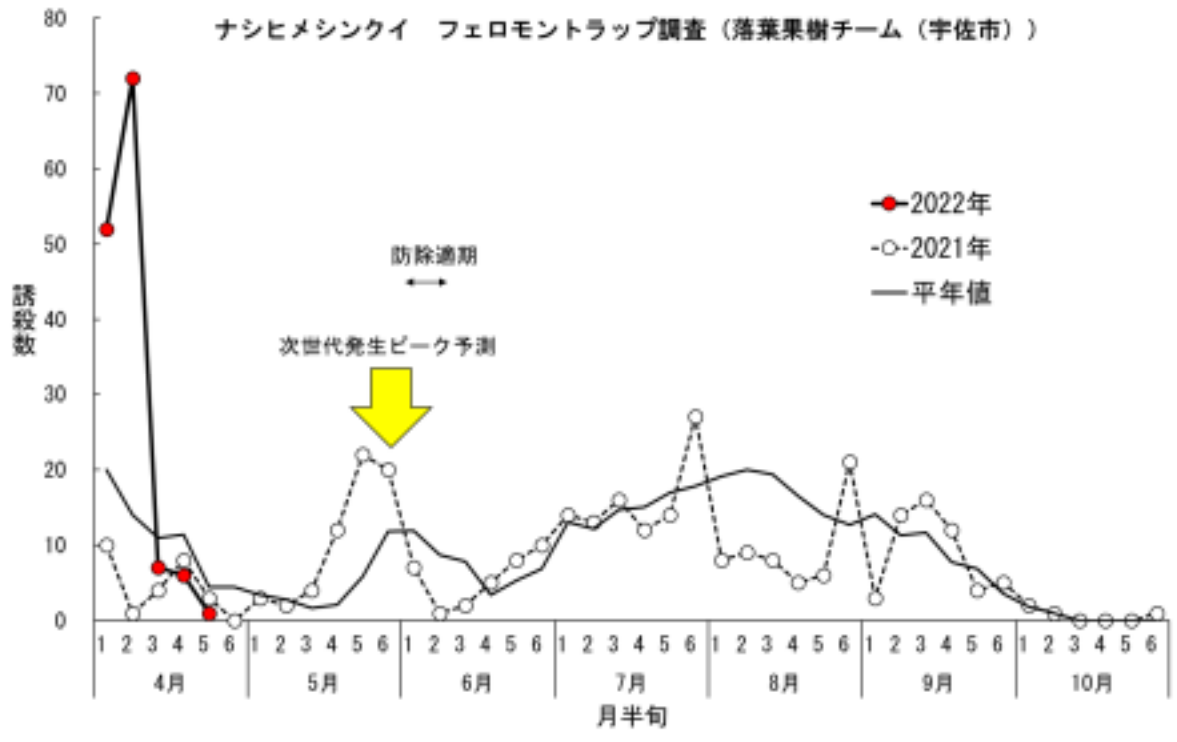


図3 ナシヒメシンクイ フェロモントラップ誘殺数 (落葉果樹チーム (宇佐市))